

相撲の衣服に関する考察（第2報）

—力士の袴について—

本間小枝子

The Observations of *Sumo*-Clothes (Part 2)

—About *sumo*-wrestler's "*Hakama*"—

Saeko Homma

The wearing Japanese style clothes of *Sumo*-wrestlers is determined according to rank (a tradition to distinguish the clothes worn by junior-grade wrestlers, the *makushita* rank). Formal wear (*montsuki*, *haori*, *hakama*) can first be worn only after reaching the *juryo* rank.

Based on clothing construction, this investigation was made of the *hakama* with respect to measurements, cut and sewing.

The results show that the body measurements of wrestlers at and above the *juryo* rank become larger, and based on trial calculations, a cloth width of 45~48 cm and length of 1,500 cm are required. However, the tailors actually use standard *hakama* fabric with a cloth width of 40 cm and length of 1,100 cm, adjusting the tuck and cut for each part. Moreover, the clothing is sturdily tailored, so current practice calls for hand-sewing the portions that are visible from the front and machine-sewing the reverse side.

I. はじめに

相撲界は厳しい階級社会であり、それが衣生活の面についても慣習として厳存している。

したがって、力士の衣服の着装には番付によって決まりがあり、幕下以下では細分化された着装のしきたりがある。十両以上になってはじめて、「紋付き羽織袴」の正装が着用できるようになる。

男子の袴は日本の民族衣装として、一般では最高の式服である。しかし、現在では着用場面が少ないために、知識も関心も薄くなっている。そこで「男子和服の正装は力士を見習え」と言われるように、相撲界は国技としてのスポーツを伝承するとともに、男子の和服文化をも伝承している。

今回は、力士の袴について、被服構成上から、寸法、裁ち方、縫製などについて現状を把握

したいと考えた。

II. 方 法

袴に関する諸資料および実態調査などによる(被検者には出羽海部屋の力士20人を依頼した)。

III. 考 察

袴の起源は諸説あるが、今日のように形成されたのは江戸時代であり、力士の着用は「明治42年(1909)に両国国技館の開館に伴って、関取の場所入りに羽織袴の着用が義務づけられた」ことにより現在まで継承されている。

袴には、まちつき袴(馬乗り袴)と、まちなし(あんどん)袴の2種類があり、男子の正式の袴は、まちつき袴ということになっている。しかし現在は、はき方や仕立て方の煩わしさなどから、まちなし袴の方が多く使用されているが、力士によっては、まちつき袴の方が正座に便利とする者もある。

1. 袴の各部寸法

袴の形と名称は図1のようである。

前はひだが5つあって両脇に笹ひだをとり、裾は後裾より短く切り上げてある。後は中央にひだが一つあり、相引の上の両脇は投げといって裏に斜めに折ってある。上部の腰には厚い腰板を付け、腰板下部左右に三角の付菱を付け、後ひもは付菱の内側に付けてある。

袴の各部寸法は、力士の身体計測の結果(筆者一紀要32号一相撲の衣服に関する考察(第1報))から下記の割出し寸法によって求めた。

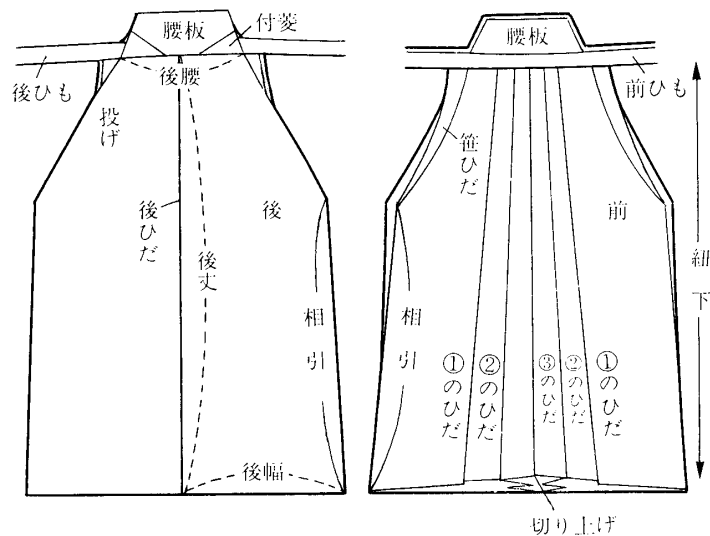


図1 各部の名称

- (1) 紐 下：身長×5.1/10，腸骨点から外果点まで
- (2) 後 丈：紐下+前の切り上げ+前後の差
- (3) 相引丈：紐下×2/3
- (4) 後 幅：長着後幅と同寸法
- (5) 後ひだの重なり：後幅×1/10位
- (6) 後腰幅：後幅×3/4+2
- (7) 前脇幅：後幅×3/5
- (8) 前寄せひだ下：後幅×1/5
 〃 上：後幅×1/10
- (9) 前紐付幅：後幅と同じ
- (10) 前笹ひだ幅：前脇幅×1/4
- (11) 腰板幅下：後腰幅と同寸法
 〃 上：腰板幅（下）×2/3
- (12) 腰板の高さ：腰板幅（下）×1/3+0.5
- (13) 付菱幅：腰板幅（下）×1/3
- (14) 付菱の高さ：腰板の高さ×1/2+0.8
- (15) 紐 幅：並幅五つ割り
- (16) 後紐丈：後幅×2.5（2本）
- (17) 前紐丈：胴回り×3.5～4

力士のはかまの寸法は表1のようである。

1) 身長と紐下との関係

袴の製作において、紐下寸法は、後丈・相引丈などを割り出すための基準となる重要な寸法と言える。

紐下寸法は表1，図2，図3-(1)のようである。身長からの割り出し寸法によれば、身長が高くなるにしたがって長くなる傾向にあり、88.2cm～96.9cmにおよんでいる。平均は91.5cmで、紐下が94cm以下のものが90%と最も多く、96cm以上のものは10%となっている。しかし、実測値によれば身長が高くなれば紐下寸法も長くなる傾向にあるが、ばらつきがみられる。実測値は88.5cm～108.5cmにおよんでおり、平均は98cmである。98.1cm～102cmのものが35%と最も多く、次いで94.1cm～98cmとなっている。実測値の方が身長割り出し寸法より平均で6.5cm多くなっている。これは体格の差と考えられる。したがって各部の寸法は実測値を用いる。

身長と紐下寸法との関係を更に表にまとめると、表2のようであり、身長が2cm増えることにより、紐下寸法は1cm増える。すなわち、身長×1/2+2が紐下寸法として簡単に求めること

表1 袴の各部寸法

No.	氏名	身長 ×5.1 10	紐		後丈	相引丈	後幅	後腰の重なり	後腰幅	前協幅	前寄せ襷		前紐付幅	前筈襷幅	腰板幅		腰板の高さ	付菱幅	付菱の高さ	胸まわり	後紐丈	前紐丈
			身長 ×5.1 10	実側							下	上			下	上						
1	I・H	173	88.2	88.5	98.5	59.0	37.3	3.7	30.0	22.4	7.5	3.7	37.3	5.6	30.0	20.0	10.5	10.0	6.1	108	93.3	378-432
2	D・N	173	88.2	98.5	108.5	65.7	46.6	4.6	37.0	28.0	9.3	4.7	46.6	7.0	37.0	24.7	12.8	12.3	7.2	145	116.5	508-580
3	K・T	174	88.7	97.5	107.5	65.0	41.1	4.1	32.8	24.7	8.2	4.1	41.1	6.2	32.8	21.9	11.4	10.9	6.5	121	102.8	424-484
4	U・S	175	89.3	100.5	110.5	67.0	35.4	3.5	28.6	21.2	7.1	3.5	35.4	5.3	28.6	19.1	10.0	9.5	5.8	107	88.5	375-428
5	I・T	176	89.8	95.0	105.0	63.3	31.5	3.2	25.6	18.9	6.3	3.2	31.5	4.7	25.6	17.1	9.0	8.5	5.3	81.5	78.8	285-326
6	S・Y	176	89.8	91.5	101.5	61.0	38.7	3.9	31.0	23.2	7.7	3.9	38.7	5.8	31.0	20.7	10.8	10.3	6.2	112.5	96.8	394-450
7	H・S	177	90.3	96.0	106.0	64.0	35.2	3.5	28.4	21.2	7.0	3.5	35.2	5.3	28.4	18.9	10.0	9.5	5.8	110	88.0	385-440
8	T・B	177	90.3	95.0	105.0	63.3	39.2	3.9	31.4	23.5	7.8	3.9	39.2	5.9	31.4	20.9	11.0	10.5	6.3	119	98.0	417-476
9	K・R	179	91.3	91.0	101.0	60.7	32.8	3.3	26.6	19.7	6.6	3.3	32.8	4.9	26.6	17.7	9.4	8.9	5.5	83	81.3	291-332
10	E・G	180	91.8	98.5	108.5	65.7	36.2	3.6	29.2	21.7	7.2	3.6	36.2	5.4	29.2	19.5	10.2	9.7	5.9	110	90.5	385-440
11	K・M	180	91.8	100.0	110.0	66.7	38.2	3.8	30.7	22.9	7.6	3.8	38.2	5.7	30.7	20.5	10.7	10.2	6.2	116	95.5	406-464
12	K・H	180	91.8	100.0	110.0	66.7	35.4	3.5	28.6	21.2	7.1	3.5	35.4	5.3	28.6	19.1	10.0	9.5	5.8	106	88.5	371-424
13	T・K	181	92.3	95.5	105.5	63.7	35.0	3.5	28.3	21.0	7.0	3.5	35.0	5.3	28.3	18.9	9.9	9.4	5.8	94	87.5	329-376
14	T・U	181	92.3	98.0	108.0	65.3	34.2	3.4	27.7	20.5	6.8	3.4	34.2	5.1	27.7	18.5	9.7	9.2	5.7	94.5	85.5	331-378
15	K・N	181	92.3	94.0	104.0	62.7	41.8	4.2	33.6	25.1	8.4	4.2	41.8	6.3	33.6	22.4	11.7	11.2	6.7	127.5	104.5	446-510
16	T・H	181	92.3	101.5	111.5	67.7	36.0	3.6	29.0	21.6	7.2	3.6	36.0	5.4	29.0	19.3	10.2	9.7	5.9	106.5	90.0	373-426
17	T・N	183	93.3	104.0	114.0	69.3	40.5	4.1	32.4	24.3	8.1	4.1	40.5	6.1	32.4	21.6	11.3	10.8	6.5	129	101.3	452-516
18	N・U	183	93.3	101.0	111.0	67.3	42.7	4.3	34.0	25.6	8.5	4.3	42.7	6.4	34.0	22.7	11.8	11.3	6.7	126.5	106.8	443-506
19	K・A	190	96.9	108.5	118.5	72.3	41.8	4.2	33.4	25.1	8.4	4.2	41.8	6.3	33.4	22.3	11.6	11.1	6.6	132	104.5	462-528
20	Y・N	190	96.9	106.0	116.0	70.7	38.2	3.8	30.7	22.9	7.6	3.8	38.2	5.7	30.7	20.5	10.7	10.2	6.2	115	95.5	403-460
	平均値	179.5	91.5	98.0	108.0	65.4	37.9	3.8	30.4	22.7	7.6	3.8	37.9	5.7	30.4	20.3	10.6	10.1	6.1	112.2	94.7	393-449
	最小値	173.0	88.2	88.5	98.5	59.0	31.5	3.2	25.6	18.9	6.3	3.2	31.5	4.7	25.6	17.1	9.0	8.5	5.3	81.5	78.8	285-326
	最大値	190.0	96.9	108.5	118.5	72.3	46.6	4.6	37.0	28.0	9.3	4.7	46.6	7.0	37.0	24.7	12.8	12.3	7.2	145.0	116.5	508-580

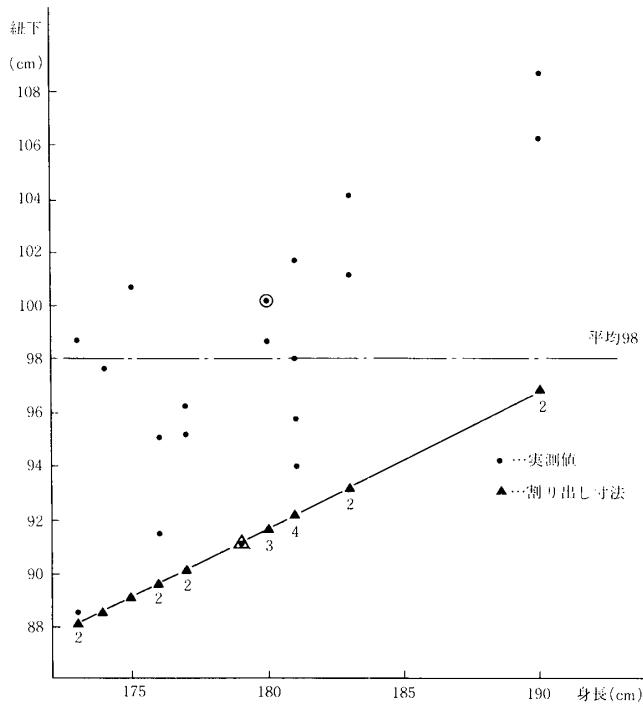


図2 身長と紐下との関係

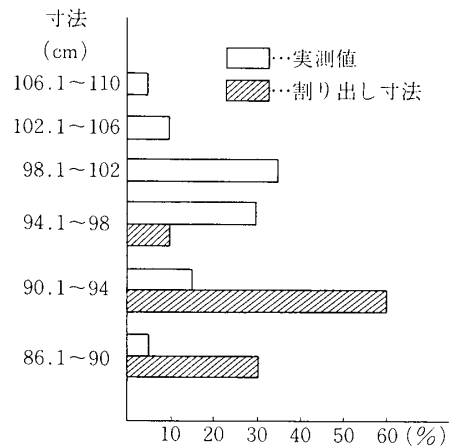


図3 各部寸法の分布

図3-(1) 紐下

表2 袴の参考寸法

身長 cm	紐下寸法 cm
172	88
174	89
176	90
178	91
180	92
182	93
184	94
186	95
189	96
191	97

ができる。また力士の場合は7cm内外を加える。これは試算によるが、参考寸法とするのも一案かと考える。

2) 後丈

後丈は、紐下に前の切り上げ6cmと前後の差4cmを加えたものである。すなわち紐下寸法に10cm加えればよい。

また、後丈は図3-(2)により紐下と同様身長が高くなるにしたがって長くなり、98.5cm~118.5cmにおよんでいる。後丈の平均は108cmである。そして後丈108.1cm~112cmの者が35%と最も多く、ついで104.1cm~108cmが30%、100.1cm~104cmが15%の順となっている。

3) 相引丈

相引丈は紐下の2/3ということで、59cm~72.3cmにおよんでおり、平均は65.4cmである。

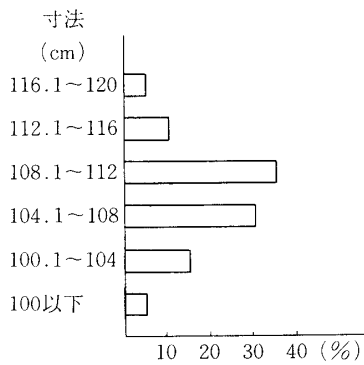


図 3-(2) 後丈

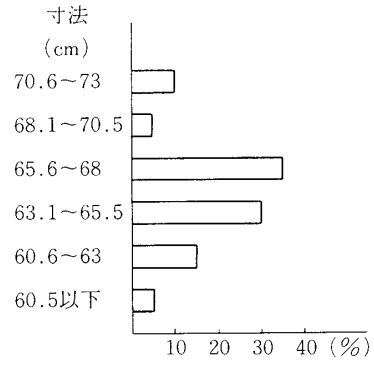


図 3-(3) 相引丈

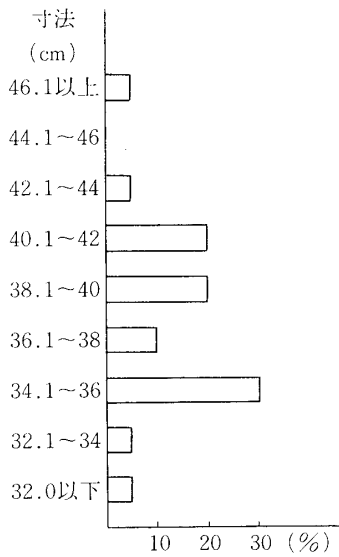


図 3-(4) 後幅

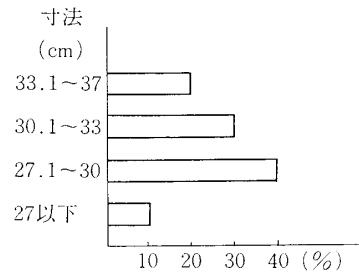


図 3-(5) 後腰幅

図 3-(3) から 65.6cm~68cm が 35% と最も多く、ついで 63.1cm~65.5cm が 30% で、60.6cm~63cm が 15% の順となっている。

4) 後幅

後幅は長着後幅と同寸法または 1cm 加えたものであり、表 1 から 31.5cm~46.6cm におよんでおり、平均は 37.9cm である。後幅は図 3-(4) から 34.1cm~36cm が 30% と最も多く、次いで 38.1cm~40cm、40.1cm~42cm がそれぞれ 20% となっている。最大後幅寸法 46.6cm については、裁ち方に工夫が必要であるので裁ち方の項で詳述する。

5) 後腰幅

後腰幅は後幅の 0.75 倍に 2cm 加えたものである。表 1 から後腰幅は 25.6cm~37.0cm におよんでおり、平均は 30.4cm である。図 3-(5) から 27.1cm~30cm が 40% と最も多く、次いで 30.1cm~33cm が 30% となっている。

6) 前脇幅

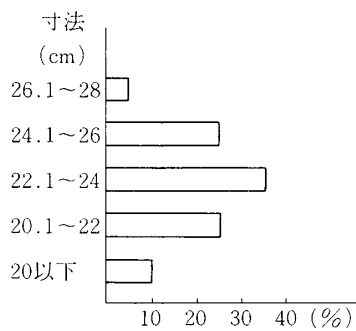


図 3-(6) 前脇幅

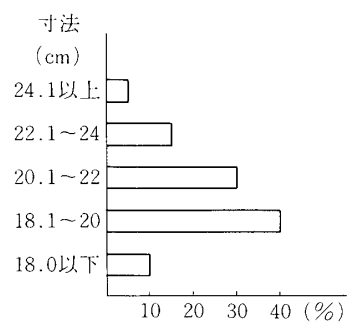


図 3-(7) 腰板幅・上

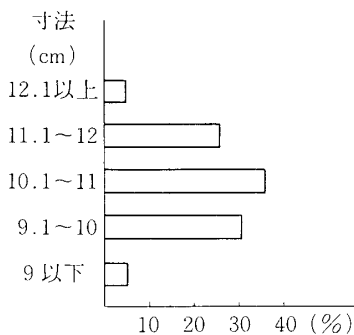


図 3-(8) 腰板の高さ

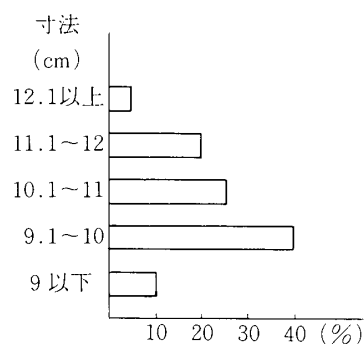


図 3-(9) 付菱幅

前脇幅は後幅に0.6倍したものである。表 1 から18.9cm~28.0cm に及んでおり、平均は22.7cm である。図 3-(6) から22.1cm~24cm が35%と最も多く、次いで20.1cm~22cm, 24.1cm~26cm がそれぞれ25%となっている。

7) 前紐付幅

前紐付幅は後幅と同寸であるため、前述の図 3-(4) で後幅と同寸法の値を示している。

8) 腰板幅・下

腰板幅の下の寸法は後腰幅の上に付けるものであるため、前述の表 1, 図 3-(5) 後腰幅の値と同寸法である。

9) 腰板幅・上

腰板幅の上の寸法は、腰板幅・下の2/3であり、表 1, 図 3-(7) から17.1cm~24.7cm におよんでおり、平均は20.3cm である。腰板の上の寸法は、18.1cm~20cm のものが40%と最も多く、次いで20.1cm~22cm が30%, 22.1cm~24cm が15%となっている。すなわち、18.1cm~24cm の範囲と言える。

10) 腰板の高さ

腰板の高さ寸法は、腰板幅・下の1/3+0.5であり、表 1, 図 3-(8) から9.0cm~12.8cm におよんでおり、平均は10.6cm である。腰板の高さは10.1cm~11cm の者が35%と最も多く、次いで9.1cm~10cm の者が30%, 11.1cm~12cm の25%である。10cm~12cm の間にほとんど

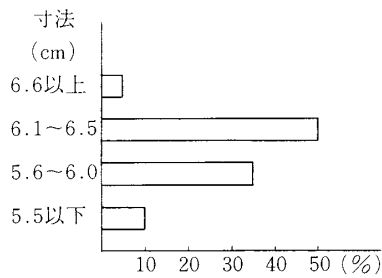


図 3-(10) 付菱の高さ

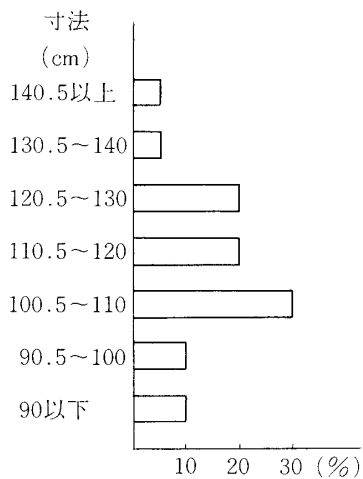


図 3-(11) 胴まわり

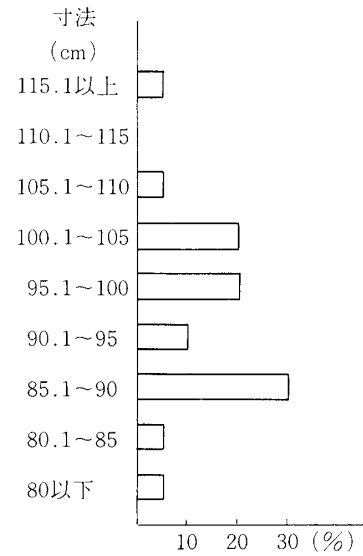


図 3-(12) 後紐丈

の者が取まることになる。

11) 付菱幅

付菱幅は腰板幅・下の1/3であり、表1、図3-(9)から8.5cm~12.3cmにおよんでおり、平均は10.1cmである。付菱幅は9.1cm~10cmが40%、次いで10.1cm~11cmが25%、11.1cm~12cmが20%の順である。したがって付菱幅は11cm内外とみなすことができる。

12) 付菱の高さ

付菱の高さは腰板の高さの1/2に0.8を加えたものであり、表1、図3-(10)から5.3cm~7.2cmにおよんでおり、平均は6.1cmである。付菱の高さは6.1cm~6.5cmが50%、次いで5.6cm~6cmが35%となっている。したがって6cm~7cmとみなすことができる。

13) 胴まわり

胴まわりは実測によるもので、表1、図3-(11)から81.5cm~145cmにおよんでおり、平均は112.2cmである。胴まわりは100.5cm~110cmが30%と最も多く、次いで110.5cm~120cmおよび120.5cm~130cmがそれぞれ20%である。したがって110cm~130cmの範囲とみなすことができる。

14) 後紐丈

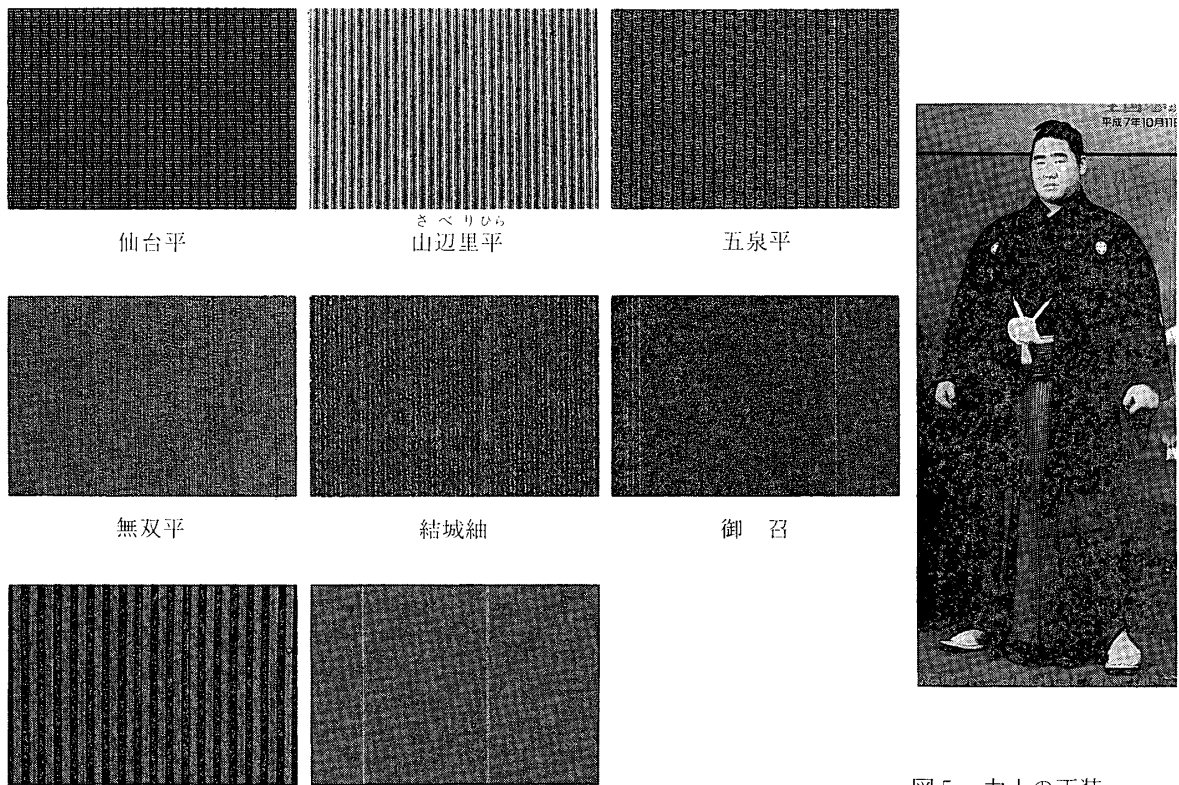


図4 袴の素材

図5 力士の正装

後紐丈は後幅の2.5倍とすると、表1、図3-(12)から78.8cm～116.5cmにおよんでおり、平均は94.7cmである。後紐丈は85.1cm～90cmが30%と最も多く、次いで100.1cm～105cm、95.1cm～100cmがそれぞれ20%である。後紐丈は85cm～105cmの範囲に属することになる。

15) 前紐丈

前紐丈は、胴まわりの3.5～4倍である。表1から、3.5倍の場合は285cmから508cmにおよんでおり、平均は393cmとなる。また4倍の場合は、326cmから580cmにおよんでおり、平均は449cmである。前紐丈は著しい長さの故に裁ち方に大きく影響する要素の一つである。

2. 袴の素材

男袴は、袴地として織り上げた張りのあるしっかりした布地で、用途と季節によって絹、木綿、ウールなどを用いる。袴の素材は下記のようなものである(図4)。

絹………仙台平、山^さべ^りひ^ら、博多平、五泉平、無双平(両面平)、紬(結城その他)、御召(無地物、縞)

絹、紗(夏物)

木綿………小倉(縞または無地)

ウール………セル、アルパカなど

表3 袴の寸法

(単位 cm)

名 称	標準寸法	力士寸法	
		平均値	最大値
身 長	170	179.5	190
長着の着丈	141内外	149	160.5
紐 下	86	98	108.5
切 上 げ 後	1.5~2	2	2
前	3	6	6
後 丈	93	108.5	118.5
相 引 丈	57	65.4	72.3
後 幅	31	37.9	46.6
後襷の重なり	3	3.8	4.6
後 腰 幅	25	30.4	37
前 脇 幅	19	22.7	28
前寄せ襷	下 上	6	9.3
		3	4.7
前紐付幅	31	37.9	46.6
前笹襷幅	4.7	5.7	7
腰板幅	下 上	25	37
		17	24.7
腰板の高さ	8.7	10.6	12.8
付菱幅	8.3	10.1	12.3
付菱の高さ	5.3	6.1	7.2
紐 幅	約3	3~4	3~4
後紐丈	約70	94.8	116.5
前紐丈	約360	393~449	508~580

注) 標準寸法は「現代の和服」大学・短期大学和服研究会編による。

力士の場合は主に絹の仙台平、博多平、紬、御召、夏は紹、紗などの無地や縞のものが多い。

力士の正装は図5のようである。すなわち、長着は黒羽二重に染め抜きの五つ紋付きで二枚重ね、羽織も同じ五つ紋付きで、ひもは白の絹の打ちひも。袴はまちつき(馬乗り袴)の仙台平か博多平をつけ、帯は博多か西陣織の角帯をしめる。会合やレセプションなどの場合は、まちつき(馬乗り)まちなし(あんどん)のどちらを着用してもよいとされている。

千秋楽のパーティなどは無地でカラフルな袴を着用し、華やかになってきている。

3. 裁ち方

袴地は特注以外は40cm幅で1,100cmの長さの1反物である。一般の人はこの用尺で裁つこ

とができるが、力士の十両以上ともなると身体寸法が更に大きくなるために裁ち方に工夫が必要となる。そこで、一般人の標準寸法と本調査による力士の平均寸法および力士の最大寸法についてみると表3のようである。

成人男子による標準寸法と本調査による力士の寸法を比較すると、力士の方が紐下、幅ともに大きいことが明白である。力士の場合は身長173cm、体重75kg以上と定められていることから、紐下は98cm以上、十両ともなれば体格が向上するので100cm内外と考えられる。

裁ち方についてみると図6のようである。

(1) まちなしの場合は図6のB・Dのようであり、必要な部分は寸法が多いだけで、一般男性と裁ち方はほとんど変わらない。しかしそれには更に前まちで太さを補い、腰布は布幅いっぱいを必要とする。あんこ型力士では、袴の用尺が足りない場合、図7のように相引きにまちを9cm内外入れることによって、布幅の補いをする。また、ひだの深さを浅くして調節することも多い。

(2) まちつきの場合は図6のCに示すように、後奥布の股ぐりから紐を裁ち出すので、主な紐をとる時、まちなしの場合幅から5本裁つが、まちつきでは4本と紐を広くしたにもかかわらず、まちなしより用布が少なくすむことになる。

しかし、股ぐり次第で着装の良し悪しに影響するので注意が必要であり、力士の場合は股ぐりのまち丈は40cm内外が適当である（普通の人とほとんどかわらない）。

一般の力士（表3の平均値以下）は1反内外で仕上げることができる。また、力士は全体的に体形が大きいので、紐幅も3cmよりは4cm程度の方がバランスがよい。

力士も外国人力士などは体格が非常に大きいので、腰板が40cm以上必要で、反物幅が40cmでは布幅に不足が生じ接ぎを入れるか⁽⁴⁾、小さく仕立てなければならなくなる（著者注：仕立師の社会では接ぎを入れるのを嫌うようである）。これ以上各部の寸法を検討したがこの不足を解消するためには、反物の幅を45cm～48cm、長さを1,500cm以上が要望される。

4. 縫製

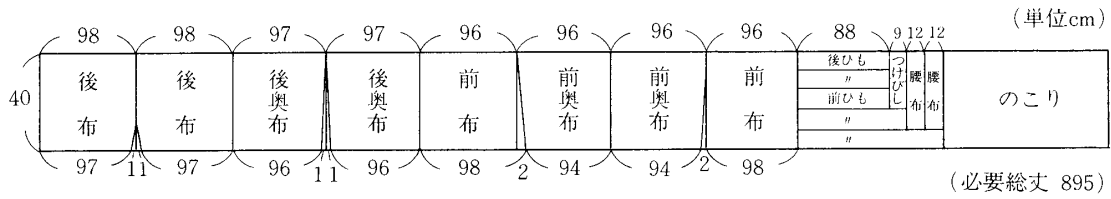
縫製については仕立屋は手縫い仕立てか、ミシン仕立てかの注文を受けて仕立てるようであるが、現在ではほとんど、後身ごろ、前身ごろの縫い合わせは、ポリエステル100%のミシン糸60番で、ミシン仕立てである。

その他を縫う、くけるなどは綿100%の手縫いの9号糸を使用している。また、しっかりするところはポリエステル100%の穴糸を使用している。力士の場合は特に丈夫に仕立てることに注意している。

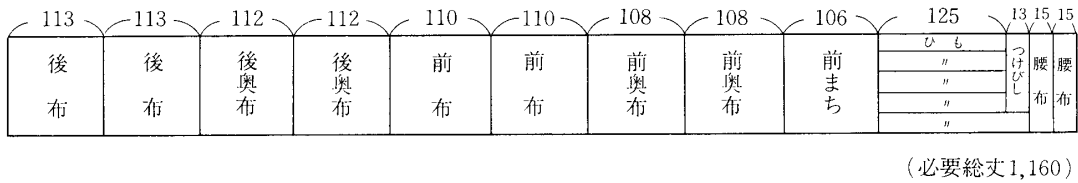
IV. まとめ

以上の結果をまとめると次のようである。

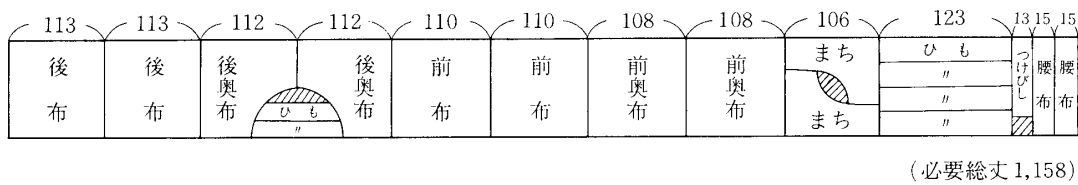
A 標準寸法による



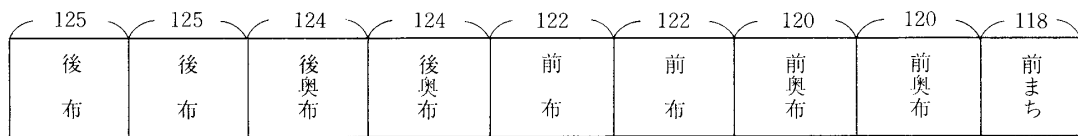
B 本調査の平均値による (まちなし)



C 本調査の平均値による (まちつき)



D 本調査の最大値による (まちなし)



- ・ 相引まちを入れる
- ・ 腰布いっぱい
- ・ 紐布10cm

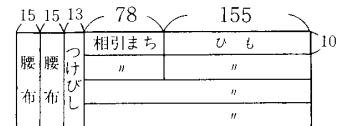


図6 裁ち方

(必要総丈1,376)

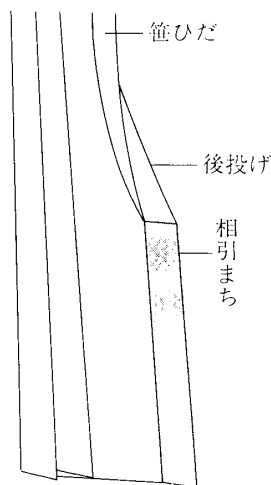


図7 相引まちの入れ方

(1) 前回の調査で、力士は一般人より身長・体重および各部の計測値がはるかに大きいことはわかっているが、今回は十両以上が対象となるので、体格は更に大きく、前述したように長着の着丈、袴の紐下および各部の寸法が、格段に大きくなる。

(2) 力士の十両以上の紐下寸法は、100cm 内外とみなすことができる。

(3) はかまの素材は、主に絹の仙台平、博多平、紬などの無地や縞のものが多く、夏は絹の絹となっている。

(4) 裁ち方では、まちなし袴の利用が多く、まちつき袴は少ない。その理由は用尺の関係からみて、まちつき袴の方が用布が少なくてすむのに、着用が少ないのは、仕立て屋の側からは仕立て方のわずらわしさ、力士にとって、はき方が面倒という理由によるものであろうか。

(5) あんこ型力士では、袴の用尺が足りない場合、相引きにまちを9cm 内外入れることによって、また、袴のひだを浅くして、ひだ幅を広くするなど調節して胴まわりの不足をおぎなう。

(6) 力士の腰板の寸法は十両以上ともなると、腰板幅が40cm 以上、紐丈も長く、総用布丈は1反以上必要となることから、2反使用するか、または布幅を45～48cm、長さ1,500cm 以上のものを特別注文する外はないのではなかろうか。

終わりに、本研究に便宜をお与えくださった日本相撲協会、理事長出羽海智敬様、ならびに力士の方々、藤田屋様、神尾織物様、その他多くの方々に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 日本風俗史事典，日本風俗史学会，弘文堂（1979）
- 2) 日本相撲大鑑，窪寺紘一．新人物往来社（1992）
- 3) 相撲社会の研究，生沼芳弘．不昧堂出版（1995）
- 4) 大相撲ものしり帖，池田雅雄．ベースボールマガジン社（1992）
- 5) 大相撲意外史，小島貞二．千人社（1983）
- 6) 相撲の歴史，新田一郎．山川出版社（1994）
- 7) 相撲錦絵蒐集譚，ジョージ石黒．西田書店（1994）
- 8) 大相撲，出羽海智敬，向坂松彦．同文書院（1994）
- 9) 大相撲，出羽綿忠雄．高橋書店（1992）
- 10) なるほど大相撲，北出清五郎，PHP 研究所（1993）
- 11) 力士100年の診断書，林 盈六．ベースボールマガジン社（1984）
- 12) 相撲界，池田郁雄．ベースボールマガジン社（1994）
- 13) 和裁（技能1．2．3）興津佳平．帝都印刷製本 KK（1991）
- 14) 立体和裁，谷扶嵯子．主婦と生活社（1987）
- 15) 和裁全書，主婦の友社．主婦の友社（1961）

- 16) 和裁, 石田はる, 主婦の友社 (1984)
- 17) 現代の和服, 大学・短期大学和服研究会, 相川書房 (1990)
- 18) きものの文様, 石崎忠司, 衣生活研究会 (1978)
- 19) 国民栄養の現状, 厚生省保険医療局健康増進栄養課, 第一出版 (1994)
- 20) 相撲の衣服に関する考察 (第1報), 本間小枝子, 跡見学園女子大学短期大学部紀要第32集

本稿の一部は1996年度跡見学園特別研究助成費によるものである。